

UNEA6 National Statement

(2024 年 2 月 29 日 (木) 19:30–22:30 : 発言 3 分 (同時通訳))

日本の環境副大臣の滝沢です。

日本はウクライナとの連帯を堅持しており、私たちは、志を同じくする国々の、共同声明に参加しました。我々は、ロシアのウクライナに対する侵略によって引き起こされた、残忍な攻撃、および環境破壊を含む広範な破壊を非難します。我々はロシアに、国際的義務を遵守し、ウクライナでのすべての敵対行為を止め、軍隊を撤退し、ウクライナの人々への迅速かつ安全な人道支援を要請します。

さて、我々は、気候変動、生物多様性の損失、汚染という、3つの世界的な危機に直面しています。これを乗り越えるためには、統合的な解決を目指す必要があります。例えば、気候変動への対策を進めるに当たっても、生物多様性の損失や、汚染にも、効果のある対策を進めていく必要があります。昨年、日本が議長国を務めた、G7 広島サミットのコミュニケでも、シナジーの重要性が掲げられました。

昨年 9 月に開催された SDG サミットでは、残念ながら、SDGs の達成は、軌道に乗っていないと評価されました。そして、目標の達成に向けて、SDGs それぞれのゴール間のシナジーを高めることが、奨励されたところです。このようなシナジー・アプローチの取組は、先進国だけでなく、途上国にとっても、利益があることが、「気候変動と SDG のシナジーに関する報告書」で示されています。また、シナジーを推進することで、効率性を高め、投資のギャップを少なくすることができます。

シナジーを世界規模で推進するために、日本は、今回、決議案を提出しました。この決議を通じて、第一に、シナジーが重要という共通認識を、国際的に作ります。第二に、シナジーの好事例を収集し、シナジーの実現方策を示した、ガイドンスを作成したいと考えています。それを活用し、各国で、シナジーを高める施策を実し、3つの危機の克服を、目指したいと考えています。

今後、日本は、シナジーに関する具体的な事例の分析と評価の研究を行っていきます。来年度には、アジア太平洋シナジー・レポートを、UNESCAP、ADB と、共同で作成する予定です。また、国連が実施している、シナジーの促進に関する国際会議も、後押しします。今後、世界各国で、シナジーの取組を拡大し、3つの危機の克服につなげていきましょう。ありがとうございました。

以上